

目指す学校像	◆生徒一人ひとりが「来甲斐」「居甲斐」「やり甲斐」のある学校 ◆伝統の継承と新たな構築による信頼される学校
--------	---

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化、学びの探究化に向けた取組の推進 2 安心・安全な学校生活を目指し、自尊感情を高める生徒指導・教育相談と学校行事の充実 3 コミュニティ・スクールの着実な推進と保護者・地域との連携強化 4 生徒一人ひとりが力を発揮できるようにするための教職員研修によるICT活用能力の向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」(国語・数学・理科)では、概ね良好な結果である。 ○日頃の学習状況の様子から、どの教科でも課題に対し、真面目に取り組む姿勢が見られる。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」の項目が他の項目と比較して課題が見られる。 ○日頃の学習状況の様子から、意欲的に学習活動に取り組む生徒が多い中、自ら主体的に物事を解決する姿勢に課題が見られる生徒も少ない。	・学びの自律化と個別最適化に向けた授業改善 ・主体的に物事を解決する力の育成を目指したSTEAMS教育の充実	①週2回、朝読書の時間帯にスタディ・サブリに取り組み時間を設け、自主学習の場を提供する。 ②小テスト・振り返り、補充学習を通して基礎・基本の定着を図るとともに、学習状況に応じ、スタディ・サブリ等も活用しながら復習、応用、発展に取り組む時間を設ける。 ③年間を通し、タブレットパソコンを活用しながら、課題に対し、自力解決の場を多く設定する。	①スタディ・サブリを活用し、生徒自身が課題克服を目指し、取り組むことができたか。 ②小テスト等の基礎の確認テストでは、正答率を80%以上にすることができたか。また、生徒が自分の学習状況に応じて課題に取り組むことができたか。 ③生徒が自ら課題を解決する姿勢をもって課題に取り組むことができたか。					
2	<現状> ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見受けられる。 ○日頃の生活の様子から、コロナ禍によるストレスや不安感、人間関係のトラブルなどを抱えている生徒も少なくない。 <課題> ○いじめの撲滅と不登校生徒の減少に向けて、組織的・計画的な生徒指導・教育相談体制のさらなる充実が課題である。 ○自己肯定感の低い生徒が、安心安全な学校生活を送れるようにするために、学校行事や授業を通じて、一人でも多くの生徒が成就感や達成感を感じることができる教育活動、自分で考え、判断し、解決する力を高められるような教育活動をさらに工夫することが課題である。	・生徒一人ひとりに寄り添いよりよい生活を支援体制の強化 ・自己肯定感を高める学校行事や特別活動の実施	①週1回の生徒指導委員会及びいじめ対策小委員会を開催し、生徒指導に係る情報の共有と方策の検討を行う。 ②週1回の教育相談部会における「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、生徒一人ひとりに適切な対応ができるようにする。 ③生徒の心に寄り添い生徒の自己肯定感を高めるような、生徒への声掛けや二者面談を行う。	①学校評価アンケートの教育相談に係る評価項目で、生徒から90%以上の肯定的な回答となったか。 ②心と生活のアンケートとともに二者面談を実施することができたか。 ③不登校傾向の生徒の生活に行動変容や意識の変容の兆候が見られた事例があったか。					
3	<現状> ○昨年度の学校運営協議会では、地域学校協働活動の具体的な策定・実施までは至らなかったが、その基盤となるような地域・保護者・生徒が協働して行う活動として、学校の整備・清掃活動を行うことができた。 <課題> ○今年度は、学校運営協議会において、目指す生徒像をもとに、具体的な身に付けてほしい力について、熟議と共通理解を図り、その力の育成のための「地域総がかり地域学校協働活動」の具体的な策定と実施が課題である。	・生徒の学校生活の様子を地域・保護者への情報発信と学校公開 ・地域学校協働活動案の策定と実施	①学校HPや学校だより等に、生徒の活動の様子を伝えるページを作成し、家庭・地域に発信する。 ②学校公開(体育祭、合唱祭、文化祭、寿能台レース)、保護者会、授業参観など学校を地域・保護者に公開する。	①学校評価の保護者アンケートで情報公開に関する項目において、80%以上の肯定的な回答となったか。 ②体育祭、合唱祭、文化祭、保護者会、授業参観など、地域・保護者に学校公開を実施できたか。					
4	<現状> ○エバンジェリストを中心に、ICT機器、一人1台タブレット端末を活用した授業について研修を重ねてきているが、教職員間で取組に未だ差異が見られる。 <課題> ○全ての職員が「学習の個別最適化」「学習の自律化」の実現を目指し、タブレットなどICTを効果的に活用した授業改善のための研修をさらに深めることが課題である。	・ICT機器を活用した、アクティブ・ラーニング型授業の実践	①市教委の学力向上カウンセリング研修や年3回のICT活用研修及び全国学力・学習状況調査、市学習状況調査結果等により、本校の実態を踏まえ、指導方法を研究する。 ②タブレットを活用したアクティブ・ラーニング型授業を全教職員の校内授業研究会を年1回以上、エバンジェリストによる校内授業公開を年2回行い、指導力の向上を図る。	①学力向上カウンセリング研修や全国・市の分析結果を踏まえ、本校の課題を明らかにし、授業改善の視点・手立てを設定することができたか。 ②校内授業研究会を通して、全教職員がタブレットを活用したアクティブ・ラーニング型の研究授業に取り組むことができたか。また、生徒対象の「学びの指標」授業アンケートで肯定的回答の数値が3.2以上となったか。					